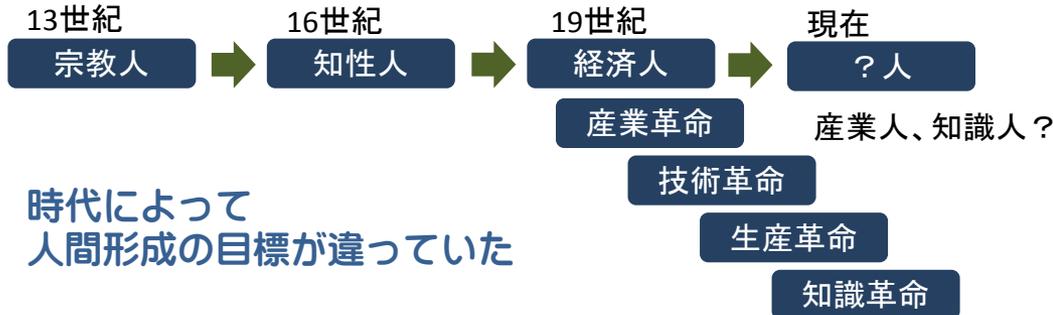


社会変化を見つける視点

間違いなく社会は常に動いている

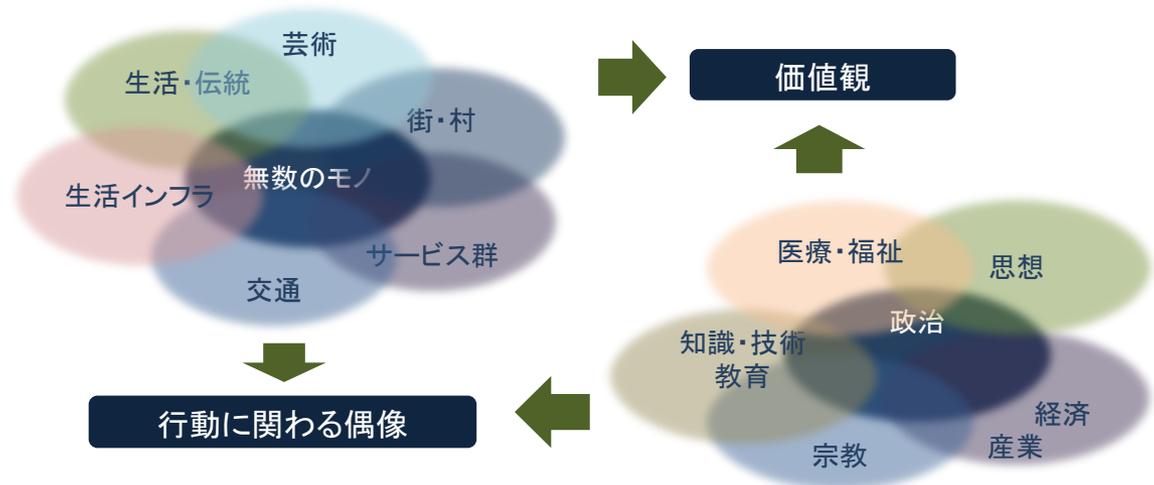


時代によって
人間形成の目標が違っていた

- 1868年 明治維新
 - 1887年 東京に電灯がつく
 - 1891年 水力電気事業起こる
 - 1920年 知識社会学(ドイツ人マックス・シェーラー)
 - 1947年 コンピュータ産業起こる
 - 1958年 電子計算機完成
 - 1969年 アポロ11号 月往復
 - 1973年 変動為替
 - 1977年 大学入試センター
 - 1986年 ソ連チェルノブイリ原発事故
 - 1990年 ドイツ統一
 - 1991年 ソ連消滅
 - 1992年 ドコモ設立 気候変動条約
 - 1993年 1ドル100円
 - 2001年 アメリカ同時多発テロ
 - 2004年 EU25ヶ国体制スタート
 - 2008年 リーマン・ショック
- ※「明治維新からの年表」をご覧ください。
<http://www.seedwin.co.jp/report.html>

社会変化の認識は、組織活動の機会発見につながる。変化の方向の是非に関わらず、個人及び組織活動は社会に最適化するように動く。社会が静止している状態であれば、組織活動は常に同じ状態になり易く発展の可能性は小さい。

社会変化の兆候をいち早く察知し、思考と行動を適応させる必要がある。視点の対象、見るポイントを検討する。



《現代史を視る》

何が起こったかを知るのには良い、博識に見えるかもしれない。それよりも、起こった事件の後、何があり、何が変わったかを考える。それこそ、歴史に学ぶである。そして、私たちは、何を行なうかを検討する。

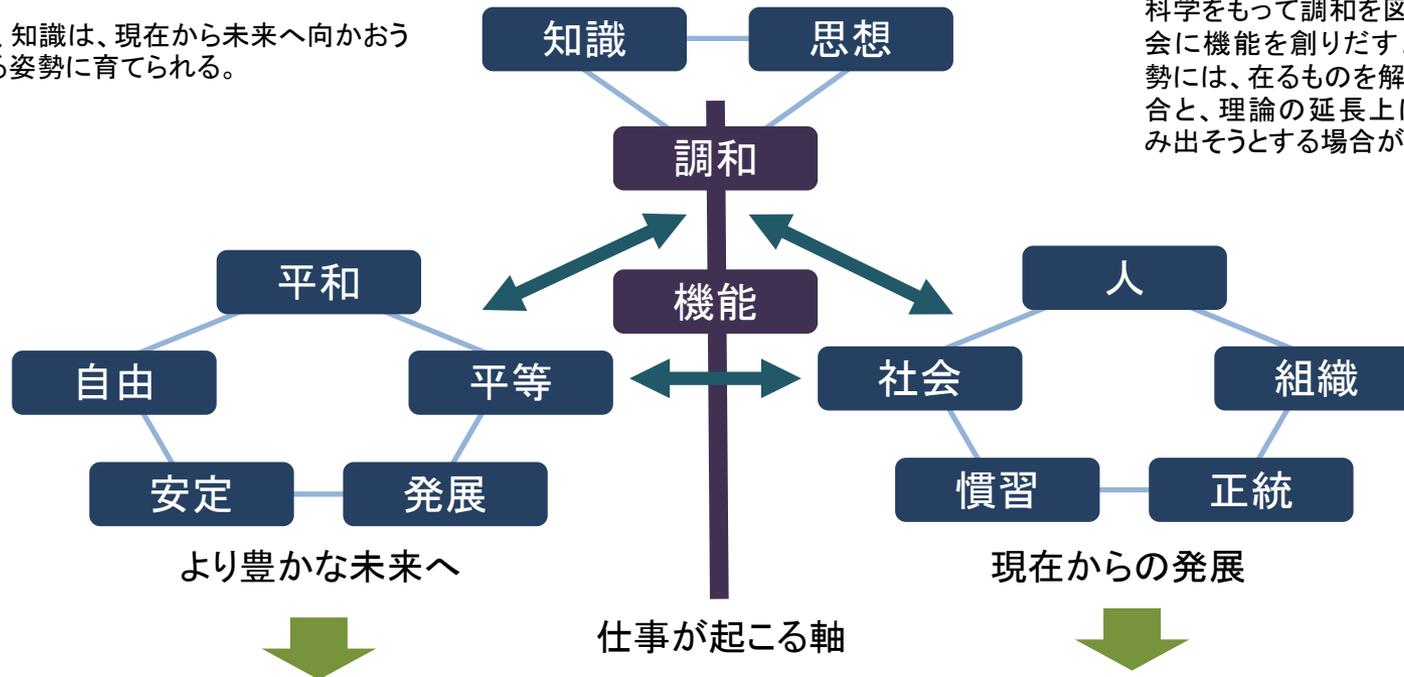
社会を視るための原則

社会は常に、自由、平等に向かって進む。自由と平等を阻害するものは如何なる論理も正当化されない。13世紀の宗教人は、現生での不平等と不自由は来生で実現されるとされ、それが現実だった。知性人は、知性で自由と平等が獲得されるとした。19世紀の経済人は経済活動こそが、自由と平等をもたらすとした。どれもが階級社会からは逃れられなかった。今も、自由と平等を求めている。自由と平等が大切な尺度となっている。

調和を図りながら機能を創りだす。

思想、知識は、現在から未来へ向かおうとする姿勢に育てられる。

科学をもって調和を図りながら社会に機能を創りだす。科学の姿勢には、在るものを解析をする場合と、理論の延長上に革新を生み出そうとする場合がある。



自由、平等、平和は如何なる時代も、人々が願う状態である。だが、発展を続け、その発展とともに安定していなければ、自由、平等、平和の意味は薄れてしまう。発展があればバランスが崩れやすくなる。発展と安定の中での自由、平等、平和の意味も変化していく可能性がある。

現在の状態は、正統性に於いて秩序が保たれている。秩序は、より確かな自由、平等、平和へと向かう。秩序を保つのは、人と組織、社会が互いに機能しなくてはならない。秩序への概念は、文化からの慣習で凡そが賄われている。慣習と正統性を改善または革新しながら、社会は進化していく。現代を如何なる形で知覚するかが、進歩を押し進める。

社会を観察する視点

社会変化の発見、機会発見と同じある。変化は成長のチャンスである。

変化した後では、手遅れで、変化の兆候を見つけなければならない。

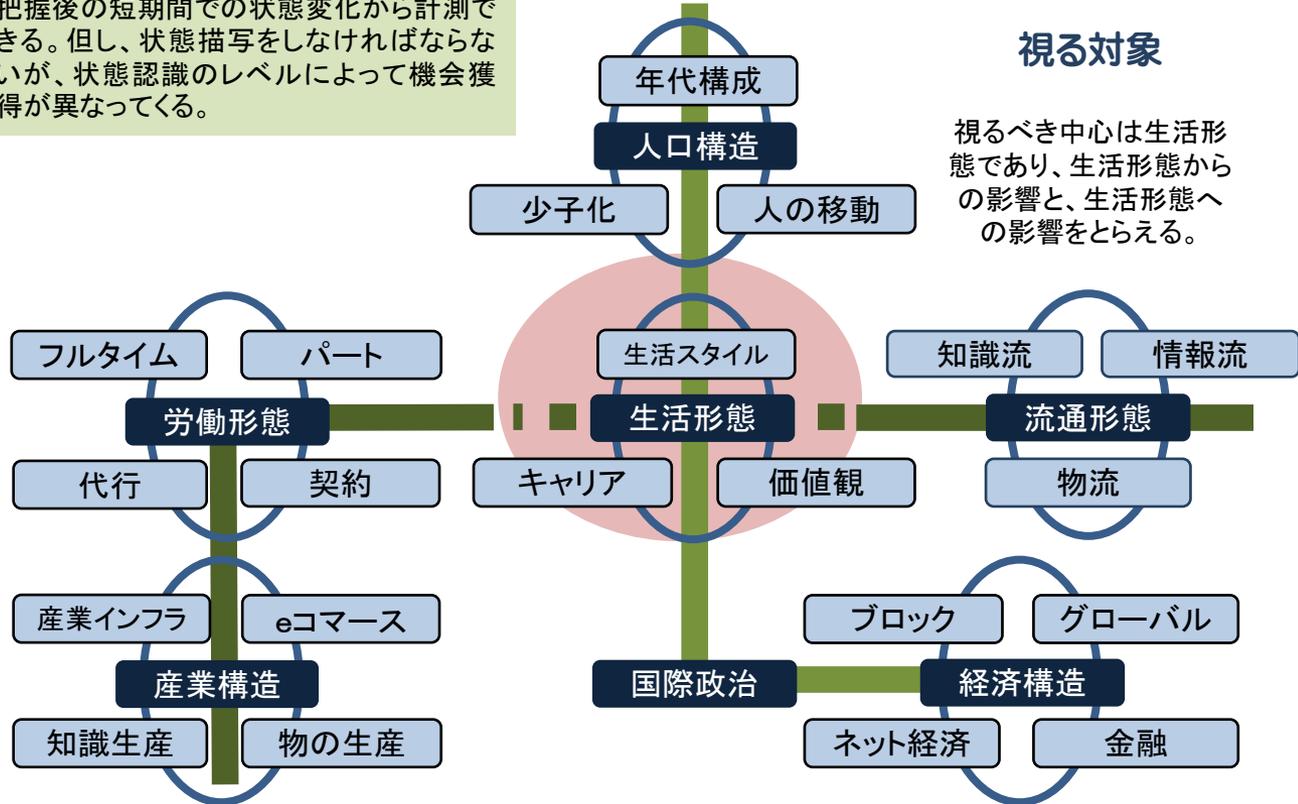
2つの視点がある。一つは状態を見る視点、他は見る対象である。2つが組み合わされて、変化と変化の影響をつかめる可能性が出てくる。
 変化の影響が出てくる対象、影響の強さを計る必要が出てくる。手がかりは、状況把握後の短期間での状態変化から計測できる。但し、状態描写をしなければならないが、状態認識のレベルによって機会獲得が異なってくる。

【見る対象】下記図の7つ項目がある。ともに、社会の秩序に大きな影響を与える。
 流通形態の変化は、社会変化に直結する。労働形態は、緊張と抑圧が常時繰り返し替えられ、定期的に潮流が現れるが、その寿命は長くない。等々。
 それぞれ項目と自らの活動との関連を把握しておく。



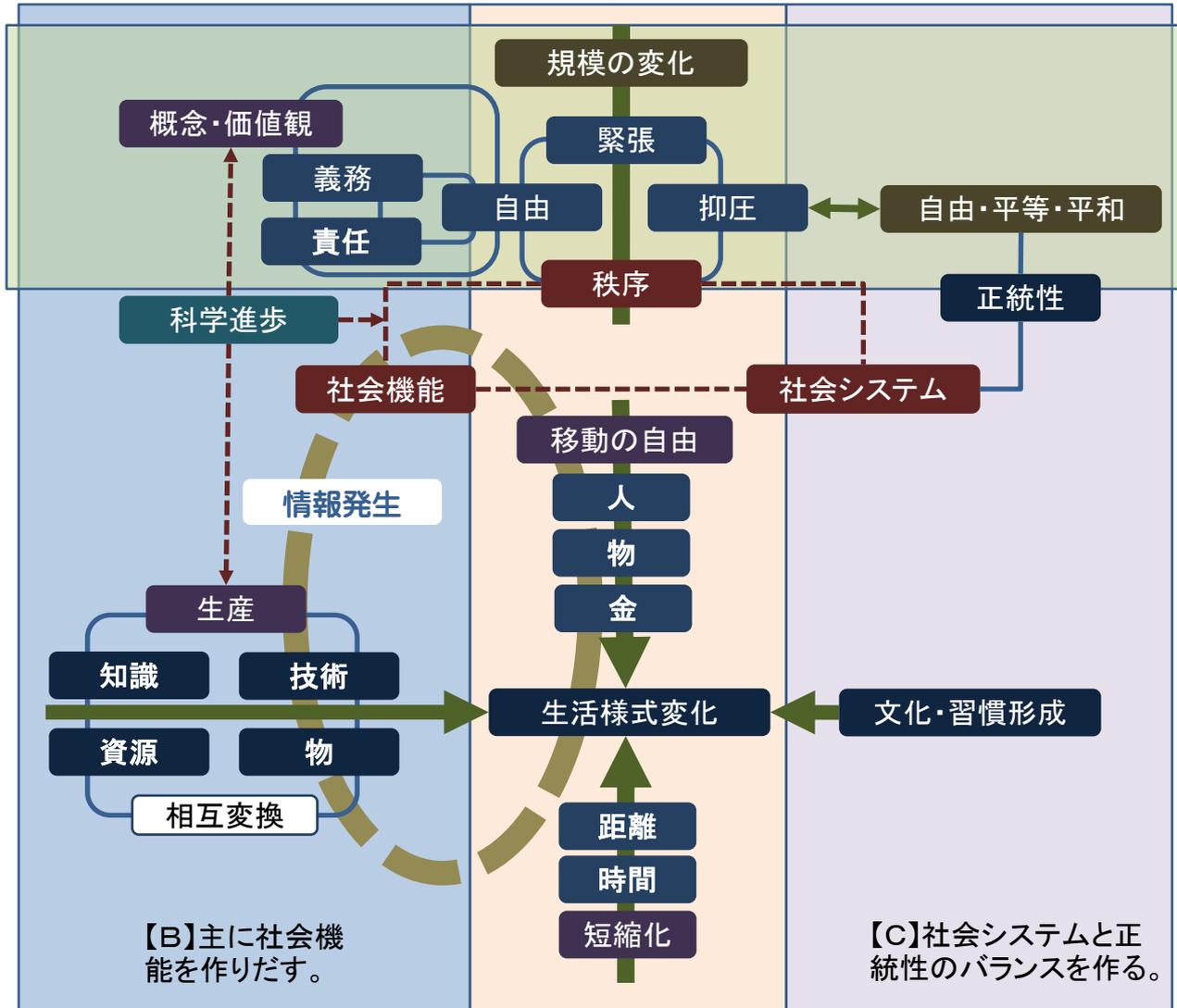
状態を見る

社会状態を探る手がかりが「緊張」「抑圧」「潮流」「転換」「変革」の5つである。どこかの分野で、必ず、5つのどれかが起こっている。変革は変化の結果であるが、変革の後には必ず緊張が起こっている。右の図の各項目について、5つの状態を観察する。さらに、自らが活動している産業、業種、職種について5つを探す。観察は短い周期で確認する方が良い。



社会を刺激する要素

【D】
秩序のための
バランスを作りだす。



【B】主に社会機能を作りだす。

【A】社会を刺激し、変化を作りだす。

【C】社会システムと正統性のバランスを作る。

社会が構成されている要素の関連性の概略を表した。

社会を説明しようとする、社会システムを中心にみる傾向が強い。企業人は、生産とか、市場を見ている。

社会には4つの側面があり、4つが同時に動き、影響し合う。A~Dのどれかが重要なのではなく、4つとも観察し考える対象になる。

その中心は、【A】であり、人、物、金の移動、人に伴い知識、情報の移動が、強く他に影響する。【A】を除く他が【A】に影響するのはもちろんであるが、観察する対象として【A】の変化が見つけやすい。

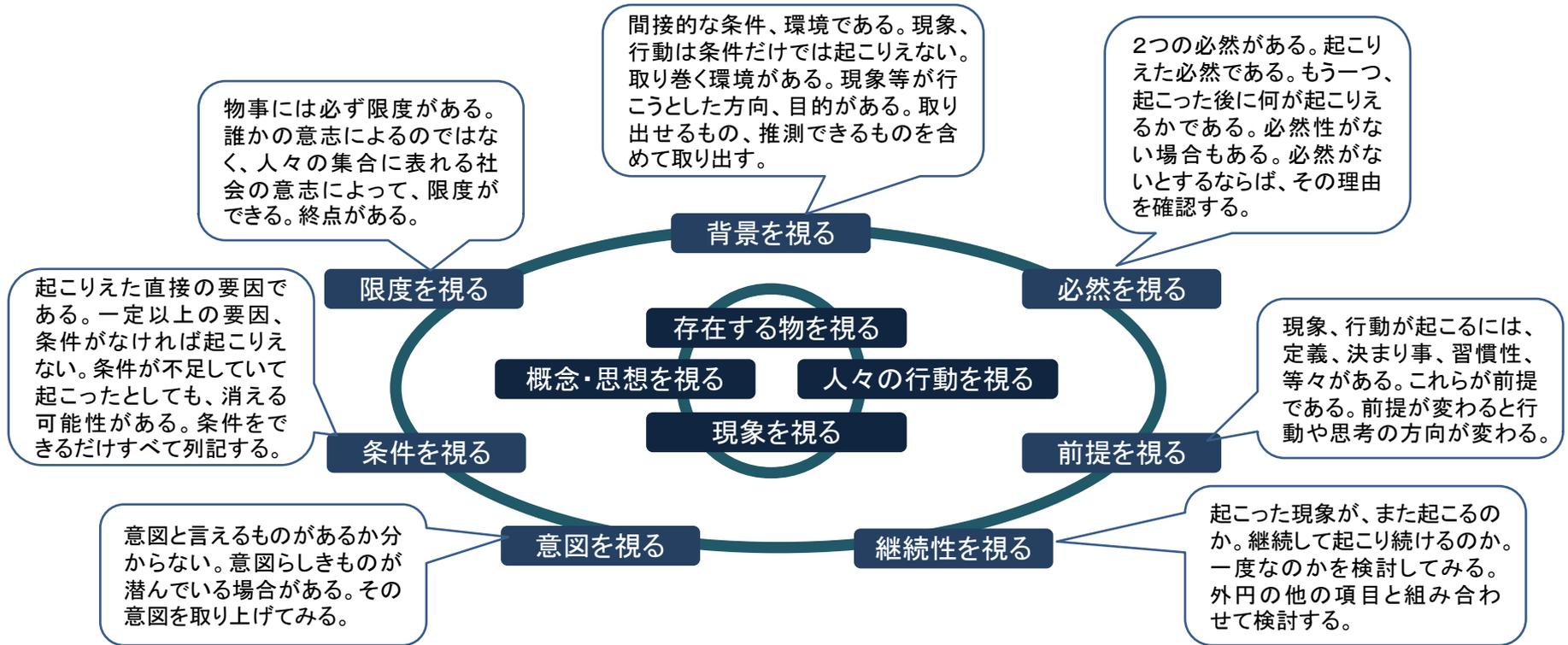
多機能社会である。【B】は各機能別の立場で見えていく傾向が出てくる。社会観察のための前提を確定してからになる場合が多くなる。

【C】は変化に年数がかかる。5年から10年のサイクルでの観察になり易い。短期間で観察する場合は対象を分解してからになる。

【D】は概念、価値観に関わる変化である。聞き取りをするか、継続した観察が必要である。

現象と背景を取り出す

観察した結果として中の円の項目がある。中の円の内容は「社会を刺激する要素」で挙げた結果である。
中の項目が起こりえる材料等々がある。外の円に材料等々を7つ挙げた。



外円項目の検討結果は、推定と明瞭なものに分類される。推定されたものは、回を重ねていくと、分散と絞り込みが繰り返され、明瞭なものに変化していく。

推定を推定としてはならず、推定した理由がどこかにあったはずである。回数を繰り返すと、推定理由に気付く時がきて、新たに推定したとき、修正が可能になる。

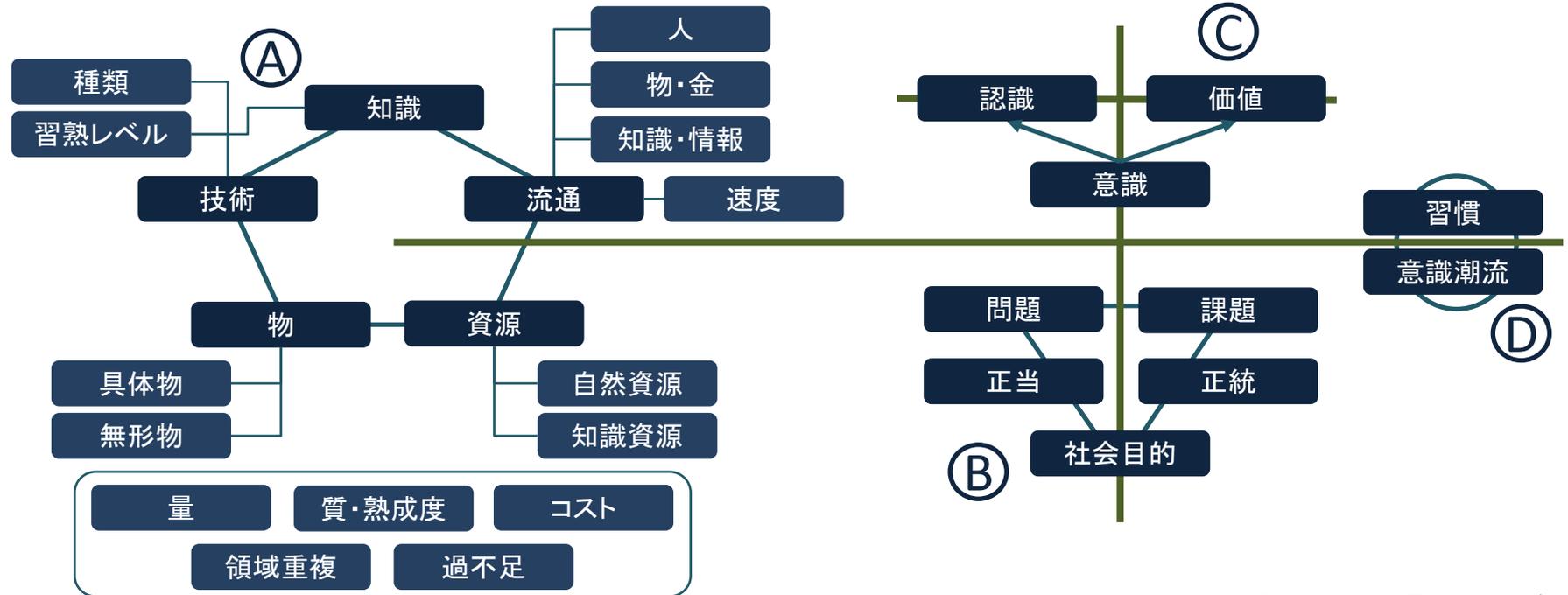
社会変化を数で追うのは、客観性に満ちている。数の範囲を間違っていたとしても、事実としてとらえられる。しかし、一つ問題がある。確かな数はすべて過去の結果でしかない。

意味を追う。意味を追うとその後に数が続いていく。意味が数の範囲を示していく。

社会状況を測定する

ただ、観察しているだけでは、変化は見つからない。視点を定めてDATAを収集しよう。
情報が情報になるのは、DATAが手元に来て、意味を持ったときである。

社会で起こっている事柄、現れた事柄がすべて取り出され、分析できれば、想像もしなかった事柄が分かるかもしれない。インターネットができ、大半のデータは現れて出ているから、分析できなくはない。文章データの分析ツールはすでに存在し、数値分析は十分に研究されている。社会の状況を把握するための道具はそろっている。どのように活用し、経済効果、社会進化に如何なる影響があるかが論理的に成立すれば、一気に分析は加速されるだろう。



データは大きく、A～Dの4つに分類される。Aに表した5つの事柄は、現代社会の資産である。知識、技術、物、資源、流通の5つについて、細部にわたり列記され、互いの関係が把握されれば、社会の要素は算出される。

Aは、一つの組織をとらえても、組織機能が表される。一つの組織とBの関係が明らかにされれば、組織機能を高められる。Aの機能はBによって影響を受ける。通常は一組織としてABを観察している。

正統性は、地域のDによって、地域のBが確定する。世界中のDのデータが集められて、分析され、統合したとしたら如何なる解が現れるのか、興味深い。Aの流通速度で、各地域のDが変化し始めているのは確かであるし、各地域の社会目的が影響されている。Aの流通速度がCの認識に影響を与えている。Cの意識がBの問題と課題を掘り起し、Dをも変え、Aに影響を与えている。分析は、A～Dを個別に行い、互いの関連を求めていけば、状態把握も含め、活動の方向性が現れてくるだろう。

社会変化の兆候を見つける

社会変化の兆候を、日常活動の中で見出す方法を列記してみた。分析するまでもなく、いかに変化の兆候を見いだすかである。仮に変化の兆候を見つけたとき、兆候とした例を集め、分析する必要がある。

変わったものを見つけた時、例外として扱わないようにする心がけが必要である。例外として見過ごしていると変化を見逃してしまう。

《組織内で発見できる社会変化の兆候》

- 売上変化はどの商品に起こっているか。顧客の意識変化の傾向が出てきている。想定外以上の売り上げ増減が変化した場合、市場に意識変化が起こっている。
- 計画外コストが増えてきたら、問題が現れる傾向がある。
- 問題が発見されたら、すでに市場に変化が起こっている。
- 仲間の意見が全員一致するようになったら、限られたところしか見ていない印である。市場意識への硬直傾向、または組織硬直傾向にある。
- 同じクレームが続くと次期商品は衰退する。異なるクレームが出てくると顧客意識に変化が起こっている。

《市場での兆候》

- 同種類の業務で、新概念の商品が出てきたとき、市場は変動する。
- 他市場で、関連商品が出てきたとき、市場の枠組みが変わる。
- 落ち着いている市場で、他業種の市場への新規参入があったとき、顧客概念が移動・変化する。
- 商品の多機能化が現れてくると、市場は飽和になりつつある。

《社会での兆候》

- 社会での問題が様々に現れてきたら、半年後から1年後には解決しようとする施策が現れてくる。逆に決め事が多く現れてきたら、半年後か1年後に多くの問題が出てくる。
- 問題が表面化すると金の動きが小さくなり、解決策が出てくると金の動きが活発になる。しかし、市場形成はこの逆である。
- 新制度ができたり、制度が強化されると、関連市場は縮小されやすい。新市場ができる可能性が生まれる。
- 産業単位での計画が発表され、達成時期が集中すると、計画達成前後に新市場が生まれやすい。

《言語分析での兆候》

- 体言率が大きくなると、半年以内に社会問題が多発する。用言率が大きくなると問題は収束に向かう。
- 論理強制力の数値が上がり始めると、事件が起こりやすくなる。関連ワードに注意。
- 主張力系が下がり始めると、不透明な時を迎える。 etc.